

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ライフインなごみ
(ユニット名)	4階
所在地 (県・市町村名)	紋別市
記入者名 (管理者)	幾島正博
記入日	平成21年1月20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	事業所の基本理念を具体化しながら、全スタッフが理念を意識しながら働けるように取り組んでいきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念の共有ができるよう、各ユニットごとのミーティングの際に、含まれる言葉の意味を考え合い、共有し合えるように取り組んでいきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	理念を、ご家族の皆様方とも共有しながら、お一人おひとりの生活の質が良くなっていくように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近隣の方との馴染みの関係が築けるように取り組んでいきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	もっと多く、入居者様と一緒に地域の行事に参加する機会を作っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の相談機関の一つとして、紹介いただいております。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年は改善に向けた取り組みが出来ませんでした。	○	今年の評価を無駄にすることなく、改善項目に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年以上の期間が空きましたが、昨年12月に開催することが出来ました。その際、今後は定期開催をしていく旨の約束をさせていただきました。	○	定期開催をしながら、情報交換をしたり、ご意見をいただきながらサービスの向上につなげられるよう、取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の方には、運営面や制度的なことなど様々な面で、日常的に相談させていただき、ご指導をいただいております。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護等について学ぶ機会は、まだ、設けておりません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な暴力だけが虐待ではなく、心理的、精神的な面に及ぼす虐待にも注意しなければならない旨の話をし合ったり、スタッフ間でも気をつけるための声掛けをしながら防止に努めております。	○	制止の言葉も度重なれば虐待になるので、細心の注意を払っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	決して十分とは言えないかも知れませんが、利用される方、ご家族の方が、出来るだけ、理解・納得しての入居になるような説明に努めております。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんからのご意見、要望、苦情などを受けた時には、スタッフに伝えながら、改善できるように取り組んでおります。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、生活の写真を載せた「なごみ通信」、金銭出納帳のコピーをお送りしたり、面会時に生活の様子をお伝えしたり、健康状態に変化があった時は、随時、電話連絡をさせて頂くようにしております。昨年、多数の退職者が出た時には、そのユニットのご家族様へ文書でご報告をさせて頂きました。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関するご家族様からの意見の反映につきましては、取り組めておりません。	○ ご家族の方が、遠慮をされたり、諦めてしまわれないうちに、こちら側からご意見をお尋ねしていく方法を考え、取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の中で出された意見や提案について、すぐに反映できたこともあります。答えを出せずに来ていることが多いです。	○ 現状に即した提案は、柔軟に取り入れ反映させて行くのはもちろんですが、出された意見に対しての返答を早くできるようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の状況の変化や、要望に応じた勤務時間の調整が出来るように努めております。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動によるダメージを最小限にする為、異動スタッフの人数には気をつけております。	○ 今後も職員の異動は考えられることから、3階、4階の共通点を増やしたり、入居者様とスタッフが交流できる機会を増やすなどしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外で研修を受ける機会を設ける取り組みは行なっております。</p>	○	<p>研修受講に取り組みながら、研修で学んだことを共通認識にして、日々の介護や日々の行動を変えて行けるように取り組んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>遠紋地区のGH勉強会等に参加し交流する機会を持てるようにしております。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間にはゆったりとくつろげる休憩室が用意されております。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者はミーティングに参加し、スタッフの日頃の思いを把握するようにしております。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居される方が、極力、納得された上での入居になるよう、また、入居前に馴染みの関係作りが出来るよう、自宅や病院などを訪問し、話し合えるように努めております。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居される方の思いを受け止めることと同様に、ご家族様の苦悩や希望なども伝えていただけるように努めております。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談が即入居ということではなく、相談される方の置かれている状況や環境などをお聴きした上で、入居が良いのかどうか相談させていただいております。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様が、出来るだけ安心、納得できるよう、まずホーム見学をしていただくことをお願いしております。また、職員との馴染みの関係が出来るように、家庭訪問などをさせていただいております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物や、調理、洗濯、掃除に関することを一緒に行い、ご本人の持てる力を引き出すことが出来るように努めてはいるが、まだ、スタッフが一方的に行なっていることが多いです。	○	もっと、できることをお願いしたり、学ばせていただく場面を多くしたり、入居者様とスタッフが支えあいながら生活していく関係作りが出来るように考えていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方と共にご本人を支えて行くという取り組みが不十分です。	○	ご本人をご家族の方と一緒に支えていくことを大切に考えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後もご家族様との関係が継続できるよう、外出、外泊、電話、手紙、FAX、面会などをお願いしております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人など、訪問時にはゆっくり面会していただいたり、また、馴染みの理・美容院等に通えるよう支援しております。	○	入居者様ももっと外に出て、馴染みの人にお会いしたり、お好きな場所に行くことが出来たり、今までの関係が途切れないように努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お一人おひとりが孤立しないように、場面や状況に応じて、職員が媒介になりながら、入居者様同士の交流が保てるように努めております。(ゲームや体操、会話など)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	受診時などに、入院先の病室に面会に寄らせていただくこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入院されているご家族様への面会など、入居者様のご希望を把握しながら出来るだけ希望に添った生活に近づけられるように取り組んでおります。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにより、バックグラウンドを確認、把握したり、入居後も会話の中からご本人の生き方、生活歴などについて、教えていただくようにしております。	○	進行していく、認知症という病気をもちながら生きる方の、生活を支える上で、生活歴の把握は大切なので、より深く広く、把握できるようにしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の流れに沿って、お一人おひとりの過ごし方を捉え、出来る力、分かる力を把握するようにしております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ間だけで話し合い、検討した介護計画になっております。	○	生活の中で出されるご本人の言葉、入居者様に気持ちを寄り添わせながらスタッフが感じ取るご本人の思い、そして、ご家族様からの希望を取り入れた介護計画に出来るようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行い、また、変化が生じた時には、ショートケアプランを立て介護するように取り組んでおります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の勉強会を行い、介護スタッフの気づきや本人の言葉、なごみで生活されている様子を生き生きと記録するように、また、その記録を介護計画の評価につなげていくように取り組むようになっています。	○	勉強会で教えていただいたことを大切にし、ライフインなごみで生活して下さっている様子を、スタッフの視点も交えながら残していくようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々ご本人の希望、要望に向き合いながら、暮らしを守る為に必要な支援を行なうよう努めております。(受診、理美容、嗜好品等の買い物、ご家族様に会いに行く、電話をかける 等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	どうしても閉じこもりがちになる生活ですが、地域で行なっているひまわりクラブに毎月参加させていただいております。また、警察の方にご協力をいただいたこともあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在はそのような支援は行なっておりませんが、ご希望やその必要性があるときには、他のサービスも利用できるように支援をさせていただきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご希望や必要性が発生した時には、地域包括支援センターに協力を仰ぎたいと考えております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は、その方が入居前からかかっていた医療機関にすることを基本としています。必要性によっては、ご本人やご家族、主治医と相談をさせていただき、受診先を変えるなど適切な医療を受けることが出来るように支援をさせていただいております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	協力医療機関やかかりつけ病院の医師に相談させていただいております。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	看護職の資格を持った職員と相談しながら健康管理を行っております。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	早期の退院に向け、病院側と相談調整をさせていただいております。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	まだ、取り組んでおりません。	○ 下記の取り組みと共に相談をしていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	前回、勉強会を行なって行きたいと書きましたが、未だ取り組めておりません。	○ 終末期ケアの取り組み事例についての勉強会を行ないながら、私たちが対応が可能なこと、困難なこと、不安なことなどを職員全体で率直に話し合う機会を作りたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	今まで、入居者様の退居先は皆様病院でした。何らかの病気治療による入院退居であったとしても、移り住むことによるダメージを最小限に出来るよう、情報提供を行っていかねばならないと思います。	○ 移り住む先に対して、ご本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫などを詳しく伝えて、環境や暮らしの継続性に配慮してもらえるように働きかけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導時に声が大きくプライバシーに欠ける場面があります。また、自尊心を損ねる言葉と保持できる言葉の例が一覧になった紙を台所の壁に貼り、日々確認しながら気をつける取り組みを行なっております。	○ 接遇のあり方を再度見直し、配慮が足りない場面では、お互いが声掛け合えるチームにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	好みの確認や、外出への参加など、日々の場面において希望を確認させていただいております。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先してしまうことが多いです。	○ 身体機能の低下を補う配慮や、認知症の進行に合わせたケアを行なっていくことで、その人らしい暮らしの継続が出来るようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	通い慣れた理・美容室を利用させていただいております。	○ お一人おひとりの、最も望ましい身づくりはどうか考えていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注によりメニューは決まっていますが(食べられないメニューの時は別メニューとして提供)、月に1~2回は、自由献立として利用者様の希望を取り入れたメニューとし、一緒に買い物に出かけています。食事の片付けなどは、決まった利用者様ですが、毎日の日課として行って下さっております。	○ お一人おひとりの持てる能力に応じた食事への参加を考えていきたい。(見る参加、味見をする参加、切る参加、作る参加など)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物に行ったときに、好みのおやつを選んでいただいている。また、病気のある方は、健康面を考え、量を調整しながら提供しております。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使いながらパターンを把握し、タイミングを見ながら声がけさせていただいております。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間は職員が決めさせてもらっているが、入浴時間はご本人に満足していただけるように、配慮しております。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人おひとりの睡眠パターンを把握し、眠れない時は温かい飲み物の提供や保温に留意したり、発汗があるときは衣類や枕カバーを取り替えたり、安眠の工夫をしております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	博物館等での催し物の見学や、地域の行事(ひまわりクラブ)に参加したりし、社会とのつながりが保てるように考えております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とも話し合い、ご本人の希望に応じて所持されている方もいらっしゃいます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や行事への参加などは、こちらから声をお掛けしお誘いしている。また、行きたい場所、会いたい方がいらっしゃる時には、ご希望に添えるように支援させていただいております。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特別な場所への外出支援は行なえておりません。	○	ご希望の確認をしながら、馴染みの場所、思い出の場所などに出かける取り組みも行なっていきたい。また、ご家族様と一緒に出かけられる機会も多く出来るように支援させていただきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、FAXで手紙を送信したり、ご家族様との交流が保てるように支援しております。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様や知人の方がいつでも気軽に訪問して下さることが出来るよう、また、リビング、居室等でゆっくり過ごしていただけるように心掛けております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアが出来るように取り組んでおります。	○	身体拘束と捉えられる可能性のある行為の共有をし、より気をつけていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は拘束であるとの認識をもち、夜間の防犯目的以外は施錠しないように取り組んでおります。日中、やむを得ず施錠をする際には、危険を回避する為の最小限の時間とし、施錠の理由と施錠時間を日誌に記録するように取り決めを行いました。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく目配りをしながら、入居者様の様子を把握するように努めております。また、夜間も睡眠中の様子を時間を決め確認するようにしております。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律ではなく、その方の行動の様子や、その場の環境(状況)などから状況判断をしつつ、異食等の危険防止に努めております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	お一人おひとりのリスクを認識しながら、事故防止に最大限努めております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開設時に心肺蘇生法の訓練を行ないましたが、その後は行なっておりません。	○	訓練を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練は行なっておりません。	○	年度内に訓練を行なう予定です。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の情報収集の中から、個別に起こり得るリスクについて、ご家族様に説明をさせていただいております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変に気づいた時には、すぐにスタッフ間で情報を共有し合い必要な対応に結び付けております。	○	これからも気づきの共有は大切にしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、目的、副作用は個人ごとの通院報告書にファイルし、全員で情報を共有できるように努めている。また、服薬の支援については、服薬チェック表に書いてある、薬の個数と間違いないか、服薬介助時に再チェックを行い、服薬ミスがないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様によっては、下剤で調整をしたり、体力的に座位での排泄習慣作りが大変な方には、浣腸を使用させていただいておりますが、自然排便が出来るように水分量、食物繊維、果物をおやつに提供させていただくなど、心掛けております。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自分で出来る方には、食後声がけをし行なっていただき、介助の必要な方は、見守りや一緒に歯を磨くモデリングなどでの支援を行なっております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はチェック表をつけながら、また、体重の増減も見ながら支援に努めております。体調やその時の気分等により摂取できない方に対しては、補助食品のゼリー等で補給をしていただいております。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出時のうがい、手洗いの実施を基本としながら、インフルエンザの予防接種、ノロウイルス対策としてのハイター消毒をし、感染予防に努めております。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外注しており、賞味期限には気をつけている。衛生面については、台所や調理器具のハイター消毒を随時行なっております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夏場は、玄関前にプランターを置き花を植え、木製の机やベンチを設置し、親しみやすい環境になるように工夫しております。	○	玄関やロビーの工夫も考えていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の希望に合わせ、リビング内の明かりの調整をしたり、壁には写真を貼ったり、季節に応じた花を飾ったり、落ち着ける雰囲気をもった空間になるように工夫しております。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間という空間であっても、他者とは離れたところで独りになれることが出来たり、一緒に話をしたり、TVを観られたり、思い思いにお好きな場所で過ごせる環境になっていると思います。	○	他者の気配を感じながら独りになれるセミパブリック的な場所が無いので、考えていく必要があります。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、仏壇、本、人形、家具など、馴染みの物、使い慣れたものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごしていただけるように努めております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	急激な気温、室温の変化にならないよう配慮しながら、時々窓を開け、空気の入替えを行っております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで要所要所に手すりが取り付けられており、車椅子の方でも使用できるトイレもあります。また、昨年、紋別市社会福祉協議会様から、歩行器の貸与を受け配置をさせていただいております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居時、場所がわかるように表示を取り付けさせていただくこともあります。また、場所に馴染まれ、分かれた方の案内表示は外すようにもしております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏は畑やベンチ、プランターなどを設置し、入居者様が楽しんだり、語り合えるよう工夫しております。	○	外に出られる回数を増やしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特に4階利用者様は平均して落ち着いた生活状況が見られるので、利用者様の希望、要望を理解して、どこまで可能なのかどうか相談、行動している。また、日常生活の中で職員が主体、中心となりがちになるので、いつも利用者様主体としてとらえ、生活をしていく努力をする。